



令和2年度やまがた緑環境税特集号

森林やまがた



上：やまがた緑環境税を活用して整備を行った森林(真室川町)
左：鶴岡市立西郷小学校ふれあい講座
右：山形市 第70回山形市植樹祭の様子

目次	やまがた緑環境税を活用した森づくりに対する県民の声…2	各地域における森林整備の取組み ……6
	やまがた緑環境税を活用する事業展開…3	やまがた絆の森づくり推進事業の取組み ……10
	やまがた木育推進事業の取組み ……4	県民参加の森づくりの推進…12
	山形県低コスト再造林技術実証事業の実施状況…5	やまがた緑環境税PR活動の取組…16

県民の皆様の御協力に深く感謝申し上げます

「やまがた緑環境税」は県民共有の財産である森林を守る事業に活かされています

森に散りばめられた物語

大江町七軒地区在住 野木 桃子

町土の8割を森林が占める大江町。この町にやってきたのは2015年の初夏のことです。転職を機に大江町の山間地域へ移住した私は、山々に囲まれた初めての生活に戸惑いながらも、自然に寄り添う暮らし方を一から覚えていく感覚にわくわくしていました。薪を暮らしに取り入れたり、四季折々の山の恵みを食したり、長く厳しい冬を乗り切る保存食作りを教わるなど、「森はたからの山」という言葉を体現する毎日でした。ほどなくして、地元のお年寄りから森の暮らしぶりを聞き取りまとめた地域新聞「月刊 あどぼい日記」を発行することとなり、森への関心がより一層高まったのです。

山間地域の暮らしを彩るヒント、受け継がれる知識や技術、80年、90年と森で生きてきた人々の人生の物語など、地域に散りばめられた物語を拾い集めるうちに見えてきたのは、森と深くかかわり、森を愛し、共生してきた人々の暮らしでした。かつて、杉の苗木づくりをしていたおじいちゃんは言いました。「戦後この村一帯が裸山になったのが忘れられない。苗木をつくり続けて65年。これからもこの森を守っていききたい」と、その強くたくましいおじいちゃんの姿に、自分たちの森は自分たちの手で守っていかなければいけない、という責任感が芽生えました。

そんな時、「森を守る」ために自分にできることは何だろうという疑問に答えてくれたのが「やまがた緑環境税」を活用した森づくり活動でした。本税は、荒廃が進んでいる森林の整備や、県民参加の森づくり活動のため、私たち県民が毎年納めている税金です。山形の豊かな森林を守り後世に繋げていくために「県民みんなで支える森づくり」という考え方を基盤に、様々な事業が行われていますが、その認知度向上は昨今の課題でもあります。「自分たちの森は自分たちの手で」を実践している素晴らしい取り組みを県民が知らないでいるのは実にもったいないことです。

多岐にわたる取り組みの中でも、その大切さが見直されているのが「木育」です。以前に比べ、人が木や森に親しむ機会が減ったことで生まれたこの取り組みは、全国各地で広がりつつあります。木製品を暮らしに取り入れたり、山菜・きのこを消費したり、森の中で遊んでみたりと、そのアプローチ方法は実に様々。「子供の頃、学校帰りに採って食べた木の実がおいしかった」、「藤の実でチャンバラごっこをしてよく遊んだなあ」と話すのは先に紹介したお年寄りたち。そのお話の数々が創りあげるのはまるで豊かな森の図書館。森と共に生きてきた、先人たちの多様な知識と経験に触れることも、また、山形らしい木育のかたちだと思えます。

木育に共通しているのは、様々な取り組みを通して、自らが素敵だと思う森林との付き合い方を考えられるようになってほしいということ。わたしたち大人ができることは、その機会をつくってあげることだと思っています。やまがた緑環境税がその一翼を担うことを期待するとともに、これらの取り組みが県民にとって親しみのもてるものとなるよう願っています。





R2 やまがた緑環境税活用事業 775,865千円 (うち やまがた緑環境税 701,829千円)

I 環境保全を重視した森林施策の展開【森林環境緊急保全対策事業費】622,501千円 (うち やまがた緑環境税 548,465千円)

① 環境保全を重視した森林整備の推進(582,896千円 うち 緑環境税 508,860千円)

◇ 荒廃森林緊急整備事業 事業量 1,105ha(森林ノミクス推進課:582,896千円 うち 緑環境税 508,860千円)

■ 人工林整備 事業量 548ha(森林ノミクス推進課:274,468千円 うち 緑環境税 200,432千円)

手入れが不十分で荒廃のおそれのある人工林の整備

やまがた緑環境税による整備 361ha
国庫補助事業を活用した整備(森林環境保全直接支援事業等) 187ha

○ 針葉樹林維持型

人工林を適正に維持、管理するための間伐や森林作業道の設置等を行う



～多様な樹齢からなる森林が面的に配備され、公益的機能が持続的に発揮される森林へ～



○ 針広混交林型

広葉樹との混交の促進を図る強度間伐を行う



～自然生態系が豊かで公益的機能が高度に発揮される森林へ～



■ 里山林整備 事業量 557ha(森林ノミクス推進課:308,428千円 うち 緑環境税 308,428千円)

病害虫被害で活力が低下した里山林の再生。被害木の伐採や補植等を行う



～多様な樹種や年齢で構成する緑豊かな明るい里山林へ～



② 森林資源の循環利用の促進(39,605千円)

◇ 森林資源循環利用促進事業

事業量 45,819m³(森林ノミクス推進課:25,899千円)
間伐材等をラミナ(集成材)、合板等用材やチップ、ペレット等の木質バイオマス燃料等として利用するための搬出等を支援し、環境保全に配慮した木材の利用促進を図る。

◇ 広葉樹林健全化促進事業

事業量 800m³(森林ノミクス推進課:800千円)
ナラ枯れ被害木を含むナラ林を伐採し、チップ等への活用併せて、害虫の駆除とナラ林の若返りを図るため、搬出及び作業道の設置を支援する。

◇ 森林資源再生事業

事業量 71ha(森林ノミクス推進課:12,906千円)
森林の有する公益的機能の維持増進及び持続的に発揮する仕組みを構築するために、再造林に要する経費の一部を支援する。



II みどり豊かな森林環境づくりの推進 (135,823千円)

① 県民参加の森づくりの推進 (125,836千円)

【みどり豊かな森林環境づくり推進事業】(みどり自然課:111,534千円)

地域住民や市町村が行う計画的かつ広がりのある活動や地域と連携して行う森づくり活動等への支援

- 1 豊かな森づくり活動 (地域住民との協働による里山林の保全活動)
- 2 自然環境保全活動 (希少野生生物の生息地の保全活動)
- 3 森や自然とのふれあい活動 (子ども達や地域住民に対する森林・自然環境学習)
- 4 木に親しむ環境づくり (木材の地産地消や木育の取組み)

【やまがた絆の森づくり推進事業】(みどり自然課:950千円)

企業と地域が連携した森林の保全・活用と里山の活性化に向けた取組みの支援

- 1 企業・森林所有者・県による「やまがた絆の森協定」に基づく森づくり活動の推進
- 2 整備森林のCO₂森林吸収量認証による森づくり活動の見える化

【森づくりサポート体制推進事業】(みどり自然課:13,352千円)

地域住民や市町村、企業による森づくり活動を総合的に支援

② 自然環境保全対策の推進(9,987千円)

【生物多様性戦略推進事業(一部)】

(みどり自然課:2,608千円)
自然環境の変化等についての総合的なモニタリング調査

【鳥獣管理推進事業(一部)】

(みどり自然課:5,742千円)
里山など森林に生息する大型野生動物の実態調査

【野生鳥獣捕獲体制強化支援事業(一部)】

(みどり自然課:304千円)
人と野生鳥獣の共生の担い手育成

【大型野生鳥獣等野生復帰事業(一部)】

(みどり自然課:1,333千円)
傷病等で救護された野生鳥獣の復帰支援

III 豊かなみどりを守り育む意識の醸成 (17,541千円)

① 森林・自然環境学習等の推進 (3,244千円)

【やまがた木育推進事業】(みどり自然課:3,244千円)

- 1 やまがた木育推進委員会の開催
- 2 子どもの成長段階に合わせた木育教材の作成等
- 3 「やまがた木育」を指導できる人材を育成する養成講座の開催等

② みどりを育む意識の醸成 (12,905千円)

【みどりの循環県民活動推進事業】(みどり自然課:9,634千円)

- 1 森の感謝祭等の開催
- 2 森を守り、育て、暮らしに活かす「緑の循環システム」を体験する各種イベントの開催(森のホームステイ、木工体験会等の開催)
- 3 やまがた緑環境税の普及啓発
PR/パネル展の開催や広報誌「もりあ」の発行、各種情報発信サービスの活用等による普及啓発

【やまがた山水百景魅力アップ事業(一部)】(みどり自然課:931千円)

やまがた百名山探訪マップでのやまがた緑環境税PR

【総合支庁実施事業】(総合支庁:1,542千円)

- ◇ 村山総合支庁
 - ・むらやま版・木のある生活推進事業(森林整備課)
- ◇ 最上総合支庁
 - ・遊学の森づくり推進事業(森林整備課)
- ◇ 置賜総合支庁
 - ・置賜みんな一緒に森林活動ネットワーク事業(地域保健福祉課)
 - ・おきたま源流の森づくり活動推進事業(森林整備課)
- ◇ 庄内総合支庁
 - ・出羽庄内公益の森づくり事業(森林整備課)

【やまがた緑環境税広報発信事業】(税政課:798千円)

やまがた緑環境税の周知、広報

③ やまがた緑環境税の評価・検証等 (1,392千円)

【やまがた森林ノミクス県会議事(一部)】

(森林ノミクス推進課:148千円)
やまがた緑環境税の活用に係る意見交換、連携促進、情報共有

【やまがた緑環境税評価・検証委員会事業】(みどり自然課:1,244千円)
やまがた緑環境税活用事業の評価・検証等



木育人材養成講座

「やまがた木育」推進事業の取組み

(みどり自然課)

◆はじめに

県では、「やまがた木育」推進方針を平成30年3月に策定し、この方針では、県民が森や自然の大切さを学び、森や木の文化を理解・共感できる豊かな心を育み、暮らしの中に木を活かしていくことを理解し行動を起こすことができる人づくりを目指しています。

令和2年度は、「やまがた木育」の推進を図るため、指導者を養成する講座を二種類開催したのでご紹介します。一つは、幼稚園や放課後児童クラブなどで子どもに関わる方を対象としたスタートアップ講座、もう一つは、森づくり活動団体や県民の森の案内人などを対象としたスキルアップ講座です。

◆やまがた木育人材養成講座【スタートアップ講座】

- 1 期 日 7月22日(水)、7月30日(木)
- 2 場 所 庄内総合支庁(庄内会場)
村山総合支庁(村山会場)
- 3 参加者 幼児施設の教職員等 計39名
- 4 内 容 ①座学(「やまがた木育」について、山形県の森林について、木材の利用について)
②木育プログラム実習(木製スプーンづくり)

座学では、参加者が「やまがた木育」を適切に指導する上で必要な森や木の知識を身につける学習をしました。県職員が講師となり、山形県の森林文化や森林の有する多面的機能、木材に関する素材の特性やそれらを活かした利用例等について解説しました。

実習では、木製スプーンづくりを行い、参加者に製作等を実際に体験してもらうことで、指導するポイントについて理解を深めてもらうことができました。



座学の様子

◆やまがた木育人材養成講座【スキルアップ講座】

- 1 期 日 9月12日(土)、9月13日(日)
- 2 場 所 遊学の森(最上会場)、県民の森(村山会場)
- 3 参加者 各県民の森 森の案内人等 計19名
- 4 内 容 ①座学(「やまがた木育」について、やまがた木育～創ることの可能性～)
②実習(創る～木と体(人)と道具に向き合うワークショップ)

講師は、木育の先進地である岐阜県の県立森林文化アカデミーで木育を指導していた松井勅尚^{ときなり}先生です。座学では、「木育とは、木(森)と人の命を大切にすることを育むこと」といった解説や、岐阜県での活動事例の紹介がありました。

実習では、子どもでも上手に切れるノコギリの使い方を、指導者としてどう教えるかという視点から、姿勢や持ち方など細かいポイントまで丁寧に指導していただき、内容の濃い講座となりました。



ノコギリの使い方を学ぶ

◆おわりに

今後も「やまがた木育」に対する県民の理解を深めていくために、山形らしい木育を展開できる人材養成を一層進め、多くの方々から森や木に「触れる」「創る」「知る」という3つの活動に参加していただけるよう、「やまがた木育」に取り組んでまいります。

山形県低コスト再造林技術実証事業の実施状況

(森林研究研修センター)

1. はじめに

山形県の人工林は収穫の時期を迎え、県内の大型集成材工場やバイオマス発電施設等へこれまで以上に木材の安定供給が期待されることから、これからも森林資源を循環利用していくために、スギ等の再造林をしっかりと行う必要があります。しかし、植栽や保育作業に係る経費負担や、将来の収益見込みの不安から、再造林がなかなか進んでいないのが現状です。こうした状況は全国的な課題となっており、国の研究機関においても低コスト化の技術が検証され、その成果が報告されています。森林研究研修センターでは、これらの新しい知見や技術が当県の自然・社会環境に適合するのか、平成30年度から実証実験を実施しておりますので、その検証結果を御紹介します。

2. 事業の内容

当事業では、地拵え・植栽・下刈りについて従来型の施業方法といくつかの低コスト化技術を比較し、植栽木の成長量や下刈りなどの施業時間の削減に繋がるかどうかを検証しています。主な検証内容は下表のとおりです。

作業種	検 証 内 容
地拵え	伐採から地拵えまでの一貫作業林分と非一貫作業林分・地拵え方法による比較及び地拵えの効率化技術の検討
植栽	従来型（2,400～3,000本/ha）と低密度植栽（1,500～1,800本/ha）の比較
下刈り	通常7～10年程度毎年実施している施業を、2回（植栽後2、3年目に実施）あるいは3回（植栽後2、3、5年目に実施）に減じた場合の比較

3. これまでに分かったこと

【伐採後の速やかな地拵え・植栽】

伐採から2夏放置され人力地拵えにより植栽された試験地は、競合植物の繁茂が激しいため、ほぼ100%被圧され（写真左）下刈りの施業時間が長く、植栽木の成長も悪い結果となりました。これに対して、伐採から1年以内に機械地拵えをした現場では競合植物による被圧が少ない傾向が見られました（写真右）。場所の違いはありますが、主伐後、速やかに機械地拵え及び植栽をすることには、競合植物の繁茂を抑え、その後の下刈り作業における低コスト化を図る上で重要といえそうです。



(競合植物による被圧多)



(競合植物による被圧少)



(大型レーキの作業状況)

また、さらなる機械地拵えの効率化を図るために、大型レーキを使った地拵えを検証しています（写真下）。長野県で実施されている方法で、重機で大型レーキを掴み地拵えをすることにより、作業路から10m程度の枝条を除去することが可能です。今年度はレーキの形状を独自に改良し使用したところ、haあたりの作業時間は人力と比べ1/5程度となりました。今後は、より効果的に使用できる現場条件等を検証していきたいと考えています。また、低密度植栽の効果、下刈り回数削減の影響についても随時報告してまいります。

村山地域における森林整備について

1. これまでの森林整備について

村山地域では、長年の手入れ不足により荒廃のおそれのある人工林や、病虫害等により荒廃した里山林などの整備を行っています。平成19年度から令和元年度までに、やまがた緑環境税を活用して、約4,585haの森林を整備しました。令和2年度も引き続き森林整備を実施し、人工林と里山林を合わせて約282haの整備を行いました。今後も森林整備を継続し、森林の公益的な機能を回復できるよう取り組んでいきます。



森林の整備状況（村山市稲下）

2. 緩衝林帯の整備について

山形市、西川町、東根市、尾花沢市では、地域住民からの要望などを踏まえ、やまがた緑環境税を活用して緩衝林の整備を行いました。緩衝林帯（バッファゾーン）とは、手入れがされていない里山林周辺の草木や樹木などを伐採することで見通しを良くし、野生動物の接近を緩和する区域です。森林と農地との間に緩衝林を設けることで、野生動物による農作物被害の軽減が期待できることから、農地に接する里山林で一定の幅の刈払いや伐採などを実施して、林内の見通しをよくしました。今後も野生動物による農作物被害や人的被害のさらなる軽減が期待されます。

〈緩衝林帯の整備状況〉



東根市観音寺



東根市観音寺



山形市下東山・上東山



尾花沢市五十沢

最上地域における森林整備について

1. これまでの森林整備について

長年人手が入らず、整備されていない荒廃のおそれのある森林について、やまがた緑環境税を活用して間伐等の整備を行っています。平成19年度から令和2年度までの14年間で約3,077haの森林の整備を行いました。今後も荒廃のおそれのある森林を健全でかつ公益的な機能の発揮ができる森林に導くため、間伐や森林の管理に必要な森林作業道の整備を進め、人と森林が調和できるよう、整備に取り組んでまいります。



間伐後の森林（鮭川村）

2. 令和2年度の森林整備について

令和2年度は、荒廃のおそれのある森林のうち、スギの人工林等を維持していくための整備を中心に、間伐226.3haとその森林内に、森林作業道2,552mを整備しました。

また、人と野生動物の共存を目的として、活力の低下した里山林12.9haについて、刈払いや不良木の伐採、枝落しなどの森林の整備を行いました。



間伐による整備（最上町）



森林作業道の整備（金山町）



里山林の整備（金山町）

3. 再造林への支援について

平成27年度から、積極的にやまがた緑環境税を活用し、伐採跡地の再造林を進めており、令和2年度は31.0haの植栽を行いました。今後も森林の有する公益的機能の維持増進及び持続的な発揮のため、支援を継続してまいります。



平成28年度に行った再造林（真室川町）



令和2年度に行った再造林（舟形町）

置賜地域における森林整備について

1. これまでの森林整備の状況

緑環境税を活用した荒廃のおそれのある森林の整備については、平成19年度から令和元年度で3,398haを実施しました。令和3年度以降も引き続き、荒廃のおそれのある森林の計画的な整備を進めていきます。

2. 令和2年度の森林整備の状況

荒廃のおそれのある森林のうち、スギの人工林約23haに対して人工林を維持していくための間伐、刈払い等の森林整備を行いました。また、病虫害などにより活力が低下している里山林約117haに対して、森林の健全性を回復するための伐倒、玉切り、集積等の森林整備を行いました。

また、市町村への補助事業として、「森林景観整備」0.4ha、「人と動物との共存林」19.5haの里山林整備を実施しました。

さらに、森林の有する公益的機能を持続的に発揮する仕組みを構築するため、約18haのスギ等の植栽に係る再造林経費の一部を支援するとともに、国庫補助事業を活用した搬出間伐及び森林作業道の開設についても支援を行いました。

今年度は新型コロナウイルスの影響を受け、地域座談会は開催中止となりましたが、来年度においては感染対策を徹底しながら、多くの森林所有者の方々へのやまがた緑環境税の認知度向上と本税を活用した森林整備事業のPRに努め、着実な整備を図っていきます。



整備前



整備後

【針葉樹林維持型】

(米沢市)

手入れ不足により木が混み合い、生育不良となっていたため、スギ林として公益的機能の発揮が維持されることを目的として、スギが健全に生育できる空間を確保するための間伐を行いました。



整備前



整備後

【里山林整備】

(南陽市)

松くい虫とナラ枯れ被害を受けて枯損した木が多く立っていました。そのため、倒木等による二次被害の防止と健全な里山林の再生を目的として、枯損木の伐採を行いました。



整備前



整備後

【再造林】

(白鷹町)

スギの伐採跡地を放置すると、ヤブ化が進み、森林の公益的機能が低下する恐れがあります。そのため、現地調査を行い、スギの成長に適している場合は、スギ再造林を積極的に行います。

庄内地域における森林整備について

1. これまでの森林整備の状況

庄内地域では、「やまがた緑環境税」を活用し、平成19年度から令和元年度までの13か年で荒廃のおそれのある森林の整備を約5,480ha実施しました。

来年度以降も引き続き、荒廃のおそれのある森林を健全な森林に導くため、森林の公益的機能が持続的に発揮されるよう間伐等の森林整備を推進していきます。

2. 令和2年度の森林整備について

〈針葉樹林維持型〉

手入れ不足で荒廃が進んでいるスギ林約7haで間伐及び森林作業道の整備を実施しました。不良木の伐採により、間伐後の林内には光が入るようになり、森林の健全化を図りました。



〈里山林整備〉

松くい虫被害により、活力が低下している庄内海岸のクロマツ林（約293ha）において、枯損木の倒木・枝折れ落下等による二次被害防止のため、枯損木の伐採及び破碎処理を実施しました。なお、伐採木の幹部分については、燃料用チップ等への有効活用を図りました。



〈森林作業道の整備・再造林等〉

林業事業者が実施した搬出間伐（約116ha）、森林作業道の整備（約16,900m）、再造林（約21ha）への支援を行いました。また、市が実施した森林景観整備（約0.2ha）への支援を行いました。



やまがた絆の森づくり

NDソフト・こもれびの郷

所在地 南陽市上野地内（ハイジアパーク南陽隣接地） 面積：3.00ha

協定者 NDソフトウェア㈱、南陽市、山形県

活動内容 私どもNDソフトウェア㈱は、介護・福祉関連ソフトウェアの開発・販売・サポートを行っており、環境保全とCSR活動を同時に推進すべく、平成23年にやまがた絆の森プロジェクトに参画し、「NDソフト・こもれびの郷プロジェクト」を発足しました。平成23年4月より、地域に密着した森づくり活動（下刈り・草刈・間伐・歩道敷設等）を通じて、地域活性化を目指しています。

令和2年度は2期目の最終年度を迎えており、「森から生まれたものは森に帰す、森で使う」をコンセプトに、森の恵みを有効活用しながら、ハイジアパーク南陽と一体化したこもれび溢れる癒しの空間の創出と、誰もが気軽に訪れられる里山を目指しております。



企業局絆の森 月山仁田山

山形県企業局

所在地 西川町大字月岡字仁田山地内 面積：10.71ha

協定者 山形県企業局、西川町、本道寺地区会、山形県

活動内容 山形県企業局は、水源に位置する森林の公益的機能の維持・向上を図るため、水環境を保全する活動の重要性をPRするとともに、平成26年度から村山広域水道（寒河江川）の水源に位置する森林を対象に「やまがた絆の森協定」を締結し、森づくり活動に取り組んでいます。

主な活動は、職員と地域の方々によるブナの植林を行った土地の下刈りと杉の木の間伐・枝払いとなっています。

現在3期目となりましたが、今後も地域の方々との交流を深め、活動の定着化と環境保全を図っていきます。



推進事業の取組み

(みどり自然課)

伊藤園 お〜いお茶の森

所在地 西川町大字大井沢字サチラ森地内 面積：2.93ha

協定者 (株)伊藤園、(公財)山形県林業公社((公財)やまがた森林と緑の推進機構)、山形県

活動内容 私ども(株)伊藤園では、「お茶で山形を美しく。」と題して、弊社の「お〜いお茶」ブランド全飲料製品の売上の一部を、山形県の「やまがた百名山」環境保全事業のために寄付をさせていただき取組みを実施しております。具体的な活動としては、西川町にある「お〜いお茶の森」と称した場所での育樹活動(下刈り、枝打ち)を関係者と県民の皆さまと行っております。

また、地理的に「寒河江ダム水系」にあたり、下流域には弊社ドリンク製品の製造工場がございます。「森づくり」、「水づくり」活動を通じて、山形県内の皆さまとのつながりを持ち、地域貢献の一助となればと活動を推進してまいります。



南陽・「草木の森」

所在地 南陽市宮内地内 面積：75.85ha

協定者 国土防災技術(株)、(公財)山形県林業公社((公財)やまがた森林と緑の推進機構)、山形県

活動内容 国土防災技術(株)は、災害を防止するため「土と水と緑」に関する技術を追求してきました。土砂災害など数多くの経験から得られた技術を地域の森林再生に役立てるため、南陽市において森づくり活動に取り組んでいます。

この取組みは平成16年度に企業の森づくり協定を締結してスタートしました。最初にスギ幼齢林の下刈りや除伐から始まった活動は、現在、裸地の森林再生へと拡大し、肥料や土壌改良剤の導入さらには窒素固定促進のための肥料木の植栽と多様な手法を試行しています。もちろん、下刈り等の保育管理と成長量調査も定期的に行いながら早期の再生を目指しています。また、地元宮内地区の皆さまとの交流や森林育成技術に関する研修会も並行して行っております。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、活動参加者を山形支店及び仙台支店に限定し、少数で下刈り、成長量調査及び四阿の再塗装を行いました。



(1) 市町村が地域の課題に応じて取り組む森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (市町村提案型))

【東根市の取組み】

東根市では、平成20年度から一般社団法人関山愛林公益会と連携し、高崎小学校児童を対象とした森林学習を行っています。児童たちは、地域の伝統産業である関山炭づくり体験を中核に高崎地区の歴史と文化、人々の生活について学んでいます。体験の集大成である「里山キッズドリームランド(KDL)まつり」は、児童による関山炭の販売や森林散策・きのこの菌打ち・植樹などの森林体験活動、関山炭を活用した手作り料理で地域の皆さんに感謝を伝えるもので、全校をあげての一大イベントです。

令和2年度はコロナ禍の中、新しい生活様式に沿った内容を模索し、飲食を伴う活動の自粛、参加人数の縮小、時間短縮、少人数班で場所を分散しての活動を実施しました。

関山炭づくりを通して森林の役割や里山の大切さを学んだ児童たちは、これからも校外活動を実施し、地域と学校の絆を深め、里山文化を未来に継承するための活動に取り組んでいきます。



(2) NPOや地域のボランティア団体等による森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (県民提案型))

【富本小学校後援会の取組み】

富本小学校後援会(村山市)では学校林を活用し、各学年の教科の中で、木工クラブ体験や動植物観察など、児童への自然学習を行っています。中でも卒業を控えた6年生は、学校林の木を使ったベンチや卒業記念品を製作します。森林伐採、製材品の生産、加工、自らの手による利用までを体験できることは貴重であり、小学校卒業という節目を彩る大切な思い出となっています。今後も森林での活動を通して、児童の郷土愛を育む活動に取り組んでいきます。



【蔵王地区保全会の取組み】

蔵王地区保全会(山形市)では、地域沿線道周辺や共有地の老朽化した木々を整備し、地域の森林環境保全活動を行っています。森林整備により道路や電線の支障木は減少し、伐採した樹木は薪として地域住民に利用してもらうことで、地域の活性化にも役立てています。来年度は伐採した樹木を利用し、子どもたちに薪割体験をしてもらう計画です。

森林整備のほかにも地域住民が憩える森づくり活動を来年度も進めていきます。



(1) 市町村が地域の課題に応じて取り組む森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (市町村里山再生アクションプラン事業))

【新庄市の取組み】

新庄市では、市内で自然環境保全活動を積極的に行っている地域団体に対し、継続的な活動の支援を行っています。市内福宮地区では、県指定天然記念物である蝶「チョウセンアカシジミ」の生息が再確認されたことをきっかけに、平成28年から地域住民有志による「チョウセンアカシジミを守る会」が立ち上がり、生育環境の保全に取り組んできました。また、地域内外に対して保全活動の発信も積極的に行っており、自然観察会の開催や地元中学生への森林学習会等を通じて、まだまだ謎が多い蝶の生態等について広く発信しています。本年は、それらの活動が認められ、「環境やまがた大賞奨励賞」を受賞しました。今後は、生息環境の保全だけでなく、地域に愛されるような場所にしていきたいと考えています。



(2) NPOや地域のボランティア団体等による森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (県民提案型))

【森の楽器の会の取組み】

森の楽器の会は、活動拠点である最上町の間伐材から製作された創作弦楽器を活用し、小学校等で楽器作成ワークショップや文化祭発表に向けたサポートなどを行っている団体です。今年度は、新規会員も増え新たな楽器を追加し、自分たちの演奏活動に力を入れて活動を行いました。故郷の木が奏でる音色で、地域に誇りや愛着を持てる子どもが育成されることを願い、これからも町の魅力として伝えていければと思います。



【遊び工房プロジェクトの取組み】

遊び工房プロジェクトは、新庄市エコロジーガーデンを拠点とし、木、山草花、樹皮や蔓等の森の素材を活用しワークショップを行っている団体です。自然に親しみ自然を使い、そしてDIYで得られる小さな成功体験。失敗を繰り返し自分の手で作品を完成させれば、もっと作りたくなる。そして自信が生まれる。失敗なんて怖くない！僕らのモノづくり体験と一緒に参加してみませんか？



↑ Facebook
チェック!



(1) 市町村が地域の課題に応じて取り組む森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (市町村提案型))

【長井市の取組み】

長井市では、「21世紀不伐の森」の整備事業に取り組んでいます。「21世紀不伐の森」とは、長井ダム建設工事で発生した残土処理場に、消えた森をもう一度取り戻そうと始まった活動で、毎年、地元住民が主体となって植樹や下刈りなどを行っています。平成24年度からみどり環境税活用事業となっていますが、活動そのものは、平成22年度から10年間続けられてきました。

例年であれば、地区住民が集まる大きなイベントですが、今年度はコロナ禍の影響を考慮して、開催期間を2日間と定め、その中で地区ごと別々に活動する方法（分散開催）がとられました。参加者の活動時間の重複を無くし、不伐の森の活動範囲を25区画にして担当箇所を明確にしているため、森づくり活動の質を下げることなく密を回避する、工夫した開催方法です。コロナ禍にもかかわらず、延べ125の方が参加されました。

自然や森林を守り育てる心は、コロナ禍にも負けず、なお深まっています。



(2) NPOや地域のボランティア団体等による森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (県民提案型))

【最上川229ネットワークの取組み】

同団体は、私たちの生活に関わる森～川～海を繋ぐ最上川の歴史や文化を中心に、自然の素晴らしさや森林の大切さを学ぶ森林環境学習に取り組んでいます。

今年度は、白鷹町山口地区の「羽黒の森」で、蚕桑小学校2年生(22名)の自然観察会及び同小学校4年生(16人)の学習会で最上川の舟運や小鵜飼船に羽黒のスギが使われた歴史を学び、羽黒のスギ材を使った小鵜飼船の模型作りや同スギ材の短冊に俳句などを読み、木の温もりを体感しました。

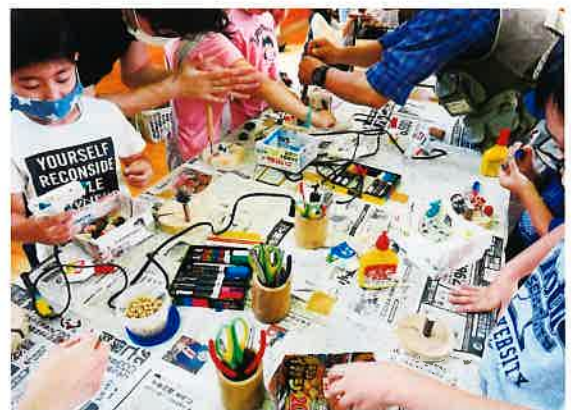


【あたご山愛護会の取組み】

同会は、白鷹町貝生地区の愛宕山で地区住民とともに森づくり活動及び地区の親子を対象に自然や木と親しむ体験活動を通して、森林の大切さを学ぶ森林環境学習に取り組んでいます。

今年度は、地区住民による倒木処理及び刈払いを行うとともに、地元の小学生とその保護者を対象に愛宕山の木の実、枝及び山野草等を使った木工クラフトを行いました。

こうした活動により、愛宕山に人が入って活用することで里山再生に繋がることを学びました。



(1) 市町村が地域の課題に応じて取り組む森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (市町村提案型))

【庄内町の取組み】

庄内町では、森林への理解や古道への関心を深めてもらうことを目的として、毎年2回トレッキング事業を開催しています。

板敷山古道コースは、現在の国道ができる前に利用していた板敷越えの古道で、炭焼き窯等の昔の名残があり、後半は紅葉を眺めるコースとなっています。古道は、関係者が現地を何度も踏査と調査をして確認できた道で、現在も毎年踏査して後年に残す取組みをしています。

今年度の板敷山古道コースでのトレッキングは、新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながらの開催となりましたが、森林の働きや古道を学習及び体験するとともに天候にも恵まれ最高の紅葉を望み、心身ともにリフレッシュすることができた1日となりました。

本事業では、トレッキング事業のほか木工教室等の体験事業も開催しています。今後もより多くの方々から、山林や木材に親しんでもらえる事業を展開していきます。



(2) NPOや地域のボランティア団体等による森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (県民提案型))

【羽黒・芸術の森の取組み】

「羽黒・芸術の森」は、洋画家今井繁三郎が生前暮らしていた8,600坪の敷地内にある雑木林を、様々なイベントや散策、自然体験できる場として整備する事業を行っています。令和2年度は、森の中の遊歩道整備や、100種類近くある様々な木に樹名札を作るワークショップを行い、活動の間には窯焼きピザでの昼食を楽しみました。例年より参加人数を絞っての開催となりましたが、今年も多くの方に参加していただきました。

来年度も引き続き、自然と芸術を体感できる、市民に愛される森づくりを進めていきます！



【西荒瀬保育園の取組み】

西荒瀬保育園では、年間を通して地域の事業所の協力のもと保護者の方と一緒に森林環境教育『みどりの保育園』事業を行っています。

園舎脇の国有林を活用した「しんちゃん森」で森や自然とのふれあい活動を行っています。また、親子で植樹、鳥海山散策で山の恵みを体験、最上川で渡り鳥観察会などを楽しんでいます。

子ども達が自然豊かな故郷が好きで大切にしていこうという思いが育まれる事を願って活動を進めています。



やまがた緑環境税PR活動の取組み

県では、県民の皆様へ「やまがた緑環境税」の趣旨や税収の使途など、制度全体の仕組みのほか、やまがた緑環境税活用事業実績の周知を図るとともに、森づくりの大切さについて理解を深めていただくため、各種イベントや普及啓発活動を行っています。

● 森林所有者を対象とした 説明会の開催

県内各地の森林組合等では、毎年、森林所有者向けにやまがた緑環境税活用事業の説明会を開催しています。令和2年度は、コロナ禍のため所有者個々を訪問して説明しました。

● やまがた緑環境税普及啓発広報誌 森と人をつなぐ「もりしあ」の発行 情報誌

【年2回、各20,000部】

やまがた緑環境税の認知度向上を図るため、事業の取組状況や森と人との関わりを親しみやすい内容で紹介しました。

より多くの県民の皆様にお読みいただくため、県内各地の公共施設や金融機関、ショッピングセンターなどに配布しました。



● PRパネルの巡回展示【20箇所】

県内各地の公共施設や大型ショッピングモールなどでパネル展を開催しました。パネルの展示にあわせて、木工クラフトなどの体験を行うなど、家族連れにも周知を図りました。



● 新聞・フリーペーパー・ラジオ・ プロスポーツ等を活用した普及啓発

【新聞広告：年1回 ラジオCMなど】

やまがた緑環境税の認知度50%（R2：33.5%）を達成するため、新聞広告やフリーペーパー、ラジオCM、プロスポーツプログラム等を活用した普及啓発を行いました。



★ 今後もより分かりやすく、より身近に感じてもらえるような
PR活動に取り組んでいきます ★